

トピックス

母子の出会いを支えるということ

～周産期研修会を開催しました～



当院の総合周産期母子医療センターでは、毎日新しい命が誕生しています。その中で、周産期の高度専門的な治療のため長期間にわたり親と離れて入院するケースや、残念ながら親の面会が困難なケースも見受けられます。当センターは治療の場ではありますが、子どもの成長発達や親子の関係性を育む場でもあります。クベースやコットの中の赤ちゃんは、とてもきれいな瞳でじっと見つめてきます。お腹の中とは違う新しい世界で、新しい出会いを求めているかのようです。子宮の中で新しい命が授かったときから、特にお母さんとの特別な結びつきは始まっています。

去る11月12日(日)に「愛着形成～母子の出会いを支えるということ～」と題して広島市の松田病院理事長・院長の松田文雄先生による研修会を開催しました。産婦人科医師、小児科医師、助産師、看護師、保健師等、県内外から70名の参加がありました。

内容を少しご紹介します。

- ・赤ちゃんは、養育者にお世話してもらいながら自分と他の人とを認識する。
- ・お世話をしてもらうことで、「自分の全てが無条件に受け入れられている」と実感する。
- ・そして、『自分が大切な存在であり望まれている』と感じるようになる。
- ・そしてそのことは、赤ちゃんが大きくなった時に自分を大切にし、自分を信じることができるようになる。
- ・そして、自分を愛せることで、初めて他人を本当に愛せることができるようになる。
- ・親子には相性があり、相性の良し悪しで、愛着の形成に影響もある。

ことを学びました。

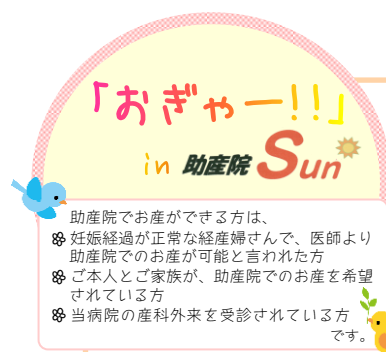
「温かい気持ちで寄り添い、大きくなっても愛着形成は修復可能」という松田先生の言葉には大きな感銘を受けました。終了後のアンケートからは、「産後のお母さんや新生児を日々観ているため、今後の母子の成長のためにも、愛着形成が促進されるようにケアしていきたいと思った」、「新しい出会いによって治療可能、過去を書き換えることができるという部分で、私たちができる支援につながればと思った」、「支援者として、生きづらさを抱えている親・子をまるごと抱えるという思いを大切に、これから自分にできることをしていきたいと思った。『愛着障害を克服した治療者は良い治療ができる』というお言葉が心強かった」等、今後の業務に役立てるという意見を多数いただきました。

長期間 親と離れた環境においても、ボンディング(絆)とアタッチメント(愛着)の両方が「母子の出会いを支えるということ」には大切であると実感できる研修でした。子どもたちの目が今日も輝き続けるために、その人らしくその子らしく、寄り添っていければと思っています。

母子保健室 主査 國廣 千枝



講演の様子



助産院でお産ができる方は、
※ 妊娠経過が正常な経産婦さんで、医師より助産院でのお産が可能と言われた方
※ ご本人とご家族が、助産院でのお産を希望されている方
※ 当病院の産科外来を受診されている方です。



院内助産院でお産をされたお母さんにお話を伺いました。今号は10月に出産された 愁弥くんのお母さんです。



現在の心境をお聞かせ下さい！



無事に元気な赤ちゃんを産むことができて、嬉しく思っています。赤ちゃんが泣いた時は、上の子があやしてくれたりするので助かっています。



「助産院で出産しよう！」と思われた理由は？



助産院でお産をすることで不安な事がありましたか？



何かあっても総合病院内であるため、助産院でのお産に対して不安な事はありませんでした。また、里帰り出産だった為、少しバタバタしてたのですが、健診のたびに助産師さんたちが丁寧に色々説明をしてくださり安心してお産にのぞむことができました。



「いざ、お産！」から過ごされてみてどうでしたか？



1人目の時、誘発分娩だったので、急に破水し、すぐ生まれました！って感じだったのですが、今回は自然に陣痛がおこり、だんだん痛みが強くなり、破水して・・・と段階を踏んでの出産だったので、その時々の助産師さんの的確なアドバイスが大変心強かったです。お産後も、1人目の時に悩んだお乳の事で相談したら、マッサージをしてくださったり、授乳の度に様子を見に来てくださったりと、見守ってくださったので、今回は順調に母乳育児をすることができており、とても感謝しております。



「助産院で出産を！」と検討中の皆さんへ、メッセージをお願いします。



妊娠中から出産後まで、顔馴染みのスタッフさんが対応してくださり、お産や産後の心配事も親身になってアドバイスしていただけるので、安心して過ごすことができます。また、畳の部屋は家族がきてモリラックスして過ごせるのでオススメです！



「愁弥 しゅうや」

秋に生まれたので、愁弥にしました。また、『弥』の字には、あまねし(行き渡る)という意味があり、気遣いが出来る子になって欲しいなと思います。



しゅうや
愁弥くん

平成29年10月6日 生まれ

助産院Sunスタッフより

分娩進行中、とても落ち着かれていて、「もっと自分を出しても大丈夫ですよ!」と感じる程でした。痛みと戦う姿は、とても凛としていて、今まさに母親になろうとしている女性は素敵だと心から思えるお産でした。とても素敵なお産に立ち合わせて頂き、ありがとうございました。(山本)

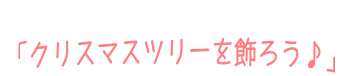


センター稼働状況



分娩数	56件	緊急帝王切開	7件
母体搬送	9件	NICU稼働率	73.6%
新生児搬送	1件	MFICU稼働率	89.4%

(平成29年11月)



「クリスマスツリーを飾ろう!」



編集後記

MERRY CHRISTMAS

12月に入り、気温も一転してこの冬最強の寒波がやって来ましたね。年末にかけて何かと忙しい日々が続きます。インフルエンザも流行っているようです。体調には十分気を付けて、皆さまよいお年をお迎えください。(C.K&N.S&Y.M&K.H)



周産期センター
キャラクター
マミー&メイ



by. お飾り隊